

瑞浪市化石博物館

近藤善教

名古屋から中央線で約1時間のところに^{みずなみ}瑞浪市がある。瑞浪市は人口4万たらずの静かな町であるが付近に良質の粘土を産出するので土岐市や多治見市とともに陶磁器食器(美濃焼)の生産の盛なところである。またこの地方はかつては美濃炭田として亜炭の採掘が盛に行なわれた。最近には昭和37年12月にウラン鉱床がこの地方で発見され月吉鉱床では現在も動燃事業団東濃鉱山で探鉱が進められている。

約700種 10万個におよぶといわれている。その中で瑞浪市教育委員会は名古屋大学地球科学教室糸魚川淳二助教授をはじめ多くの研究者の協力を得てこわされてゆく地層と化石を少しでも記録し保存しようと地道な作業をすすめてきたが去る5月1日めでたく開館のはこびとなった。

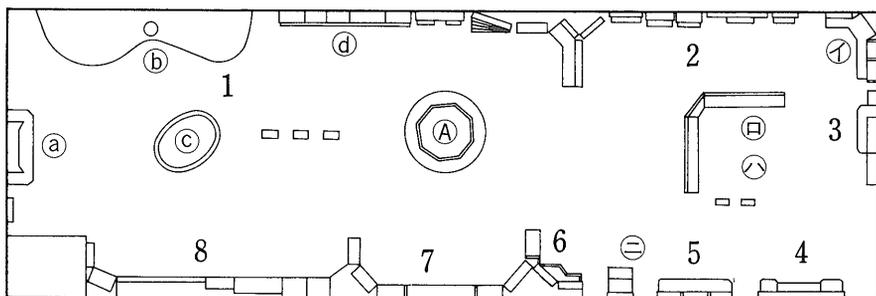
瑞浪地方はこのように地質的因縁のきわめて深い所であるがまた古くからデスモステルスと呼ばれる哺乳類ピカリヤなどの貝類の化石が発見されわが国の第三紀中新世研究のメッカとなっている。有名なナウマンが明治10年11月にその年に開学した東京大学地質学科の学生9名をつれて日本最初の地質巡検を行なった時にこの地を訪ずれておりその後地質・古生物研究者の多くは一度はこの地に足をふみいれている。

展 示
 “郷土の自然と生物のうつりかわりは 未来の展望につながる”というテーマのもとに本館の展示は行なわれている。それはただ単なる化石の羅列ということではなく地層や化石の研究から求められた古環境を復元し自然の変遷を忠実に画くように努めてある。まさに本館はわれわれの郷土の過去を写し現在をみつめさらに未来を静思させてくれる学習の場といつてよからう。

この静かな町 瑞浪市周辺にも時代の波がおしよせ1971年~1974年に中央高速道の建設工事が行なわれた。瑞浪インターの建設された付近は^{はざまぼら}狭間洞(この地方では谷すじのことを洞とよぶ)とよばれ戸狩・山野内・狭間層とよばれる瑞浪層群の模式地にあたりこの建設現場では多くの眠れる化石を発掘した。その数は

内 容 と 配 置
 当館の展示の内容とその配置は次のとおりである。
 (1)より(8)の順に中新世から現世に至る自然と生物の変遷を化石・パノラマ・スライドなどによって解説してある。

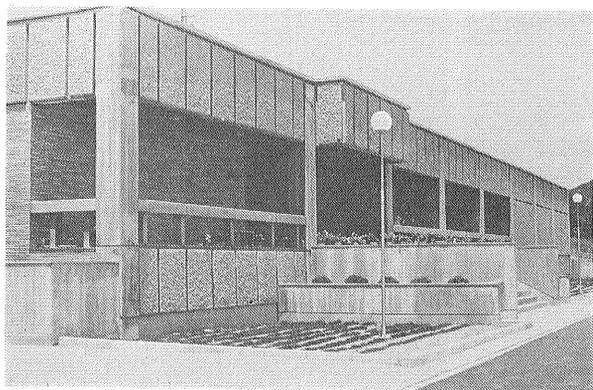
地層柱状図 瑞浪付近の地層の層序関係を一目で分るように実物標本を積重ねてある。おそらく本



- (4)古瀬戸内海
 - (5)その頃の日本
 - (6)瀬戸湖と古木曾川
 - (7)コハクと昆虫の世界
 - (8)現在の瑞浪
 - ◎人間の残したもの
 - ◎瑞浪の自然
 - ◎人間の生活
- おわりに
- ①教育広場
 - サブ・テーマ
 - ①古生態
 - ②ウランと亜炭
 - ③岐阜県の地質と化石
 - ④瀬戸内海

- 展 示**
- はじめに
- (1)瑞浪の化石と地層
 - (a)デスモステルスを含む地層柱状図
 - (b)デスモステルス・パレオパラドキシヤ
 - (2)その頃の海と陸(古環境・古景観・古地理)
 - (3)まわりの様子(岩村と可見)
 - ◎地質と地形模型
 - ◎その頃の生物
 - ◎海の生物 ◎陸の生物

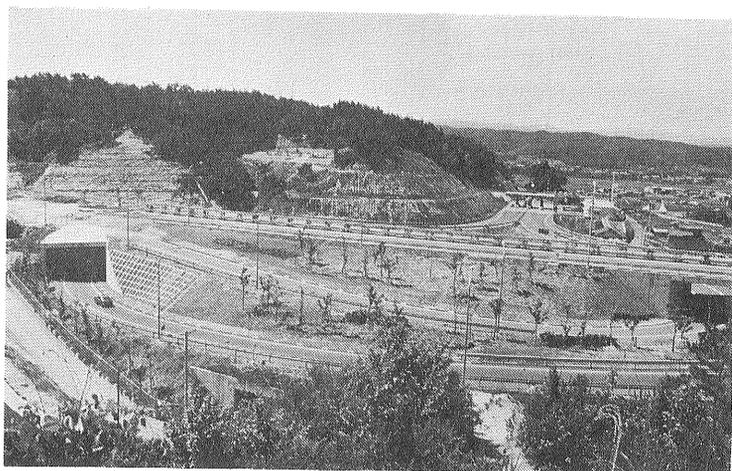
展 示 内 容 と 配 置 図



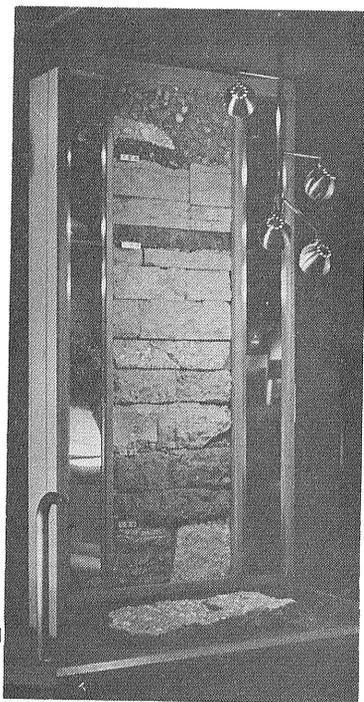
瑞浪市化石博物館



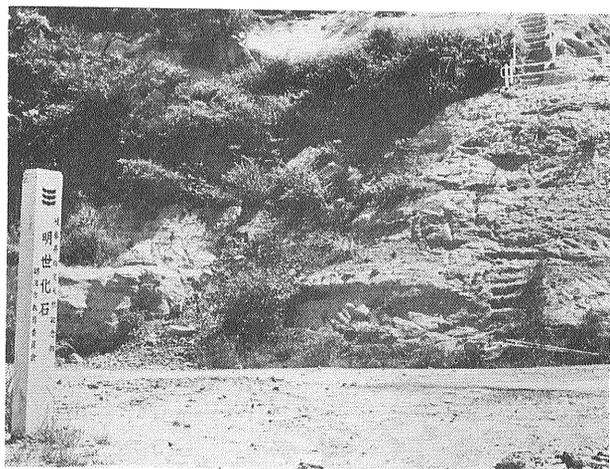
博物館付近の全景



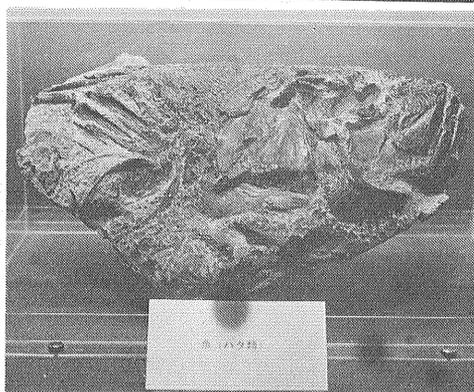
瑞浪インター（左手の崖から化石を多産した）



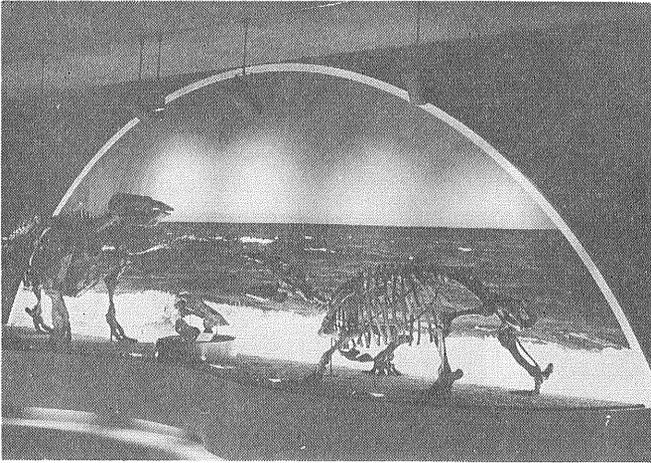
地質柱状図



博物館前の瑞浪層群の露頭

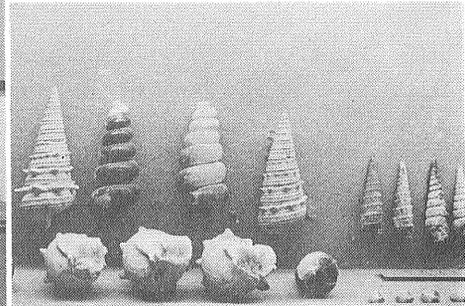
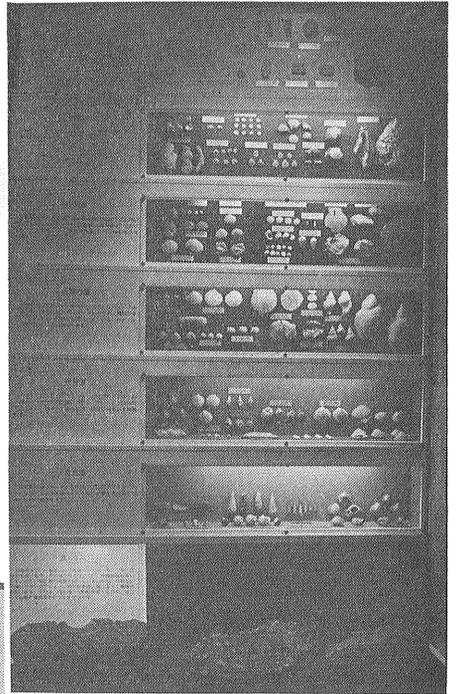


魚(ハタ類)の頭骨化石



デスモスチルス

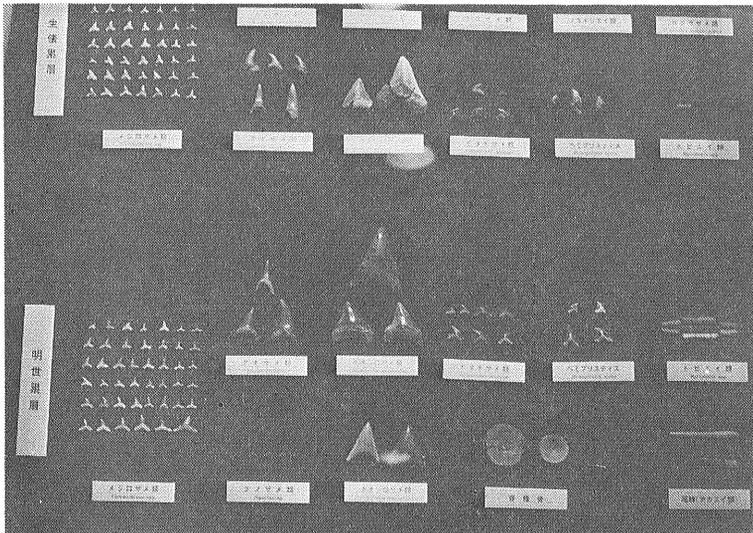
貝類化石（累層別に分類してある）

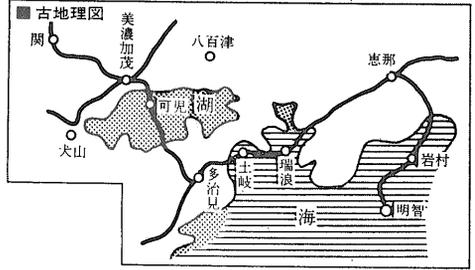


左上
クジラの化石

上
ビカリヤ（左から2 3番目は月のおさがり）

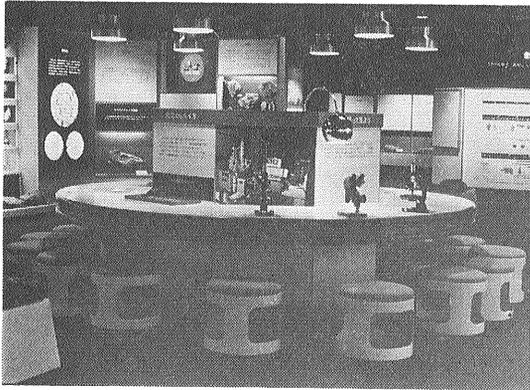
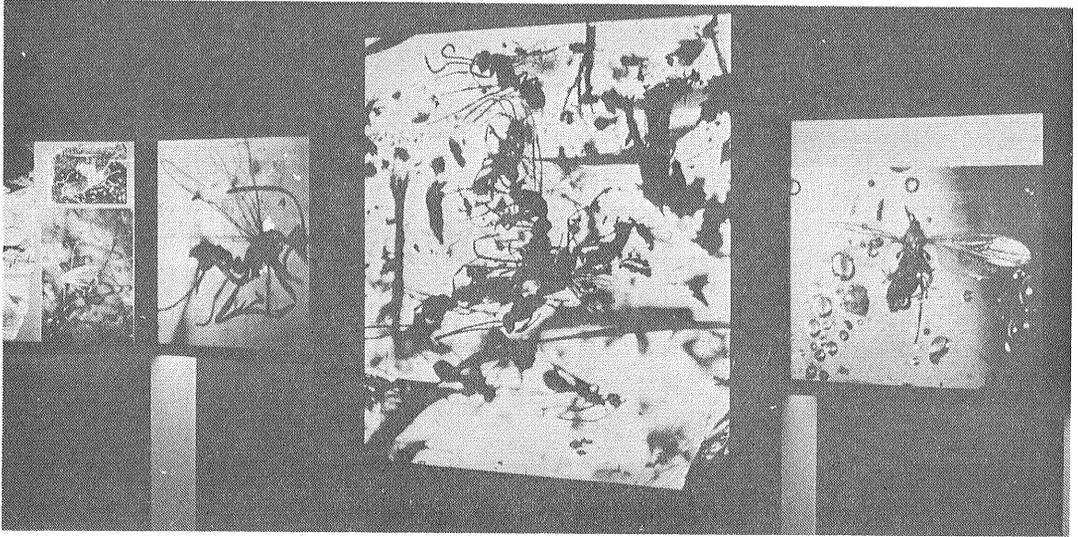
左
サメの歯の化石





可児・岩村の化石と古地理図

コハクと昆虫の世界



学習広場



博物館の近くに復元された大島古墳

館独自のものであろう。

デスマスチルス 明治31年 当館の近くで頭骨が発見されてから 北太平洋岸の各地で発見されて話題をよんだ。ここで出たものは デスマスチルス・ヤポニクスで 現在国立博物館に保管されている。当館にはデスマスチルス・ミラビリス(サハリン産)と パレオパラドキシア・タバタイ(土岐市泉町久尻産)の実物大模型を展示して 海辺をさまよう様子をパノラマで見せてある。

くじら 瑞浪インター付近の山野内層下部から 約20頭分の化石がでた。ヒゲクジラ種といわれる。

魚(ハタ類) スズキ科の仲間で 日本最大の頭骨化石である。本館より約200m西の古瀬戸橋付近の山野内層からでた。

貝類化石 瑞浪層群の各累層別に産出化石をならべてあり 下部から上部へ 種類の変化が一見できる。らせんに巻いたオパールからできている「月のおさがり」とよばるビカリヤは みごとなものである。

古瀬戸内海 中新世中期の第一瀬戸内海の古地理図を画いて 瑞浪層群を堆積した海の拡りを示してある。三重・京都・中国地方の同時期の産出化石をも展示して その共通性を分りやすくしてある。

コハクと昆虫の世界 中央高速道の工事のとき 瑞浪市釜戸町から虫入りコハクがでた。大阪自然史博物館の日浦勇氏の鑑定では 昆虫は蟻の仲間といわれている。本館には 標本とともに 拡大したカラーの大型スライドを展示してある。まさに異色の天然のなせる芸術作品である。

ウラン わが国最大の月吉鉱床付近の地質断面模型を展示して 産状を分り易くしてある。鉱石は ボタンを押せば カウンターや蛍光で観察できるようにになっている。

教育広場 展示室中央に 円形コーナーを設けてある。ここでは化石や岩石のしらべ方について解説があり 偏光顕微鏡や双眼顕微鏡で観察できるようにになっている。また化石の標本をならべて 自由に手にとって観察できるように企画されている。

収 蔵 資 料

化石 ビカリヤ オウム貝 ハマグリなど
昆虫 クモ カニなど
サメ コイ タイなど
デスマスチルス ゾウ クジラなど
オオミツバマツ メタセコイアなど

現 生 動 物 標 本

考古関係 旧石器
縄文時代・土器 石鏃^{せきぞう}
弥生時代・土器 石器
古墳時代・土師器 須恵器 鉄鏃 勾玉

各種図書 文献 写真 スライド等多数

■ 観 覧 案 内

団体割引(30名以上)
入館料 一般 200円 150円
小中学生 100円 80円
開館時間 午前 9:00~午後 5:00
休館日 毎週木曜日・国民の祝日(但し休館日と重なった場合はその翌日)
資料整理日(毎月末日)
但し月末が 木曜日及び祝日の場合は その前日とします。
年末年始(12月28日から1月4日)まで

■ 所 在 地

岐阜県瑞浪市明世町山野内1-13番地
☎509-61 ☎(0572) 68-7710

■ 博 物 館 へ の 順 路

中央線瑞浪駅下車 徒歩30分 タクシー5分
東鉄バス日吉線・多治見線 戸狩下車 徒歩10分
中央自動車道 瑞浪インターより2分

(筆者は 名古屋出張所長)

